

「お父さん、いつもありがとう」

森谷もりたに 陽翔ひなた

ぼくが今一番ありがたいのはお父さんです。

ぼくのお父さんは、自分でソフトボールのチームを作って、かんときとピッチャーをしています。以前入っていたチームでは、2013年に全国でベスト8になったことがあり、ぼくにとつて、自慢できてカッコイイお父さんです。

ぼくは、4年生の12月、子ども会のソフトボールのチームに入りました。それまでは、お父さんの練習に毎回行って行って、教えてもらっていました。今は、お父さんがぼくの練習に毎週、ついできてくれます。

ぼくは、お父さんの練習について行っていた時からずっと、「ピッチャーがしたい。お父さんみたいなカッコイイ選手になりたい。」と思っていました。今ぼくは、外野ライトを守っています。来年はピッチャーになれそうです。お父さんは、仕事からつかれて帰ってきて毎日、公園や学校につれて行って、一時間半程度ピッチング練習、夕食後には家の庭でシャドーピッチングに付き合ってくれています。でも、この練習で、ぼくはちょっとできなかったくらいでふてたり、教えられた通りに投げなかったり、全然言うことを聞いていませんでした。それでもお父さんは、熱心に教えてくれました。

一度ぼくは、チームの練習で、ピッチャーをしました。でも、全くストライクは入らないし、声も出せずに終わりました。ぼくは「もうダメだ。」とあきらめて、お父さんとの練習でも前以上にふてたり練習をさぼったりしました。そこでとうとう、お父さんに今までの態度全てをしかられました。「お前にはピッチャーなんか無理だ。」と言われるかと思つたら、そんなことは言われず、お父さんは

「お前には期待しているんだ。」

と言いました。この時、お父さんからこんな話を聞きました。お父さんは以前、右うでのじんたいをケガして全然投げられなくなったことがあり、でも、「また投げられるようになりたい。」と毎ばん公園で、100球くらい投げこんでいたそうです。ぼくは、お父さんにひどい態度をとっていたことを後かいました。そして、ぼくはまだ何の努力もしていないことに初めて気付きました。気付くのがおそかったけど、これからはお父さんの言うことをしっかり聞いて、球速やコントロールが良くなるようがんばって練習し、みんなをピッチャーさせたいです。

「お父さん、いつも練習に付き合ってくれて、ありがとう。いつか、お父さんをこえるピッチャーになるからね。」